

令和6年度 自己評価表

愛媛県立三島高等学校
学校番号 (2)

教育方針	創造性豊かな思考力・判断力と実践力を身に付け、自他の人権を尊重し、国際的視野に立つ社会的な連帯意識を培うとともに、個性を伸ばし、誠実で剛健な気風を養う。	重点目標	「自ら学び、鍛え、考える力の育成」ー夢をかなえる三島高校 夢・挑戦・飛翔ー 1 自主的な学習態度の確立 2 基本的な生活習慣の育成 3 人権尊重意識の高揚 4 部活動・ボランティア活動への積極的な参加
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	実験・実習等体験的な授業も取り入れ、分かるまでの個別指導を実施する。	B	生徒アンケートによると、実験の回数は減っているが、「説明が分かりやすかったか」「内容をよく理解できたか」の項目に対する評価は、昨年度よりも10ポイント上昇している。	ICT機器を取り入れた授業改善に取り組み、より分かりやすい授業内容となるような工夫が求められる。引き続き、ロイロノートの活用などを促進していきたい。
		特に1年生に学習方法や授業への取り組み方の細かな指導を行い、学習態度の基本を徹底する。	B	生徒アンケートの「授業を通して、基礎・基本を確実に身に付けることができましたか」の項目に対する評価は上がっているが、学習態度の自己評価はやや下がっている。	アンケート項目の「忘れ物をしないようにしているか」「授業時の居眠りをしないようにしているか」「私語をしないようにしているか」の数値はいずれも悪化しており、学習態度の改善が必要である。
	保護者との連携	生徒の学習状況が十分に理解できるような資料等の工夫・改善に努める。	B	三者面談などを通じて、適切な情報や資料の提示を行っている割合は9割近くに上り、昨年度よりもやや高い。	観点別学習状況が通知表に記載されるようになったことで、学習状況の問題点が伝えやすくなった面がある。引き続き、家庭の協力をお願いしたい。
	家庭学習の充実	計画的に家庭学習に取り組めるよう合理的な量と質の課題を講じる。 家庭学習時間を、普通科180分以上・商業科90分以上となるよう指導する。 普通科 A:180分以上 B:170~180分 C:160~170分 D:160~160分 E:150分未満 商業科 A:90分以上 B:80~90分 C:70~80分 D:60~70分 E:60分未満	B	課題の量や内容は、90%以上の生徒が適切だと回答した。	宿題や予習・復習が十分できていない生徒も一定数いる。学年が上がるごとに増える課題に計画的に取り組ませるよう、指導に工夫が必要である。
生徒指導	個別指導の充実	三者面談・個人面談を年間6回以上実施するとともに、日常的な生徒との対話や積極的な声掛けを重視する。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	B	担任を中心として、日頃から積極的な声掛けを行い、個別面談等を行うことができた。必要に応じて、教科担任や学年主任等も面談を行った。	今年度同様に、日頃からの声掛け等をしっかりと行い、個別面談を定期的に行っていく必要があると考えている。新入生については、体育祭の準備期間を有効利用して面談を行ってほしいと考えている。
	生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立によって、出席率を98.5%以上にする。また、5分前登校時の指導者を年間のべ200名以下とする。 A:98.5%以上 B:98.5%以下 C:98%以下 D:97.5%以下 E:97%以下 A:200名以下 B:201~250名 C:251~300名 D:301~400名 E:401名以上	E	5分前登校については、同じ生徒が守れない状況となっている。遅刻についても同じ状況があり、粘り強く指導していく必要があると考える。	基本的な生活習慣が身につけていない生徒が増えている状況もあり、非常に数は多くなっているが粘り強く指導していく必要があると考える。
		平素から端正な身だしなみを意識させ、身だしなみ指導合格率95%を目指す。 A:95%以上 B:94% C:93% D:92% E:92%未満	E	基本的な生活習慣が身につけていない生徒の増加もあるが、身だしなみ指導については変化の時期を迎えているといえるので、柔軟に対応していく必要があると考える。	指導をしっかりと行っていくことはもちろんであるが、変えていくべきところについては、しっかりと検討していく必要があると考えている。
	保護者との連携	普段から家庭との連携を密にして、保護者との共通理解に努める。	B	必要に応じて、担任を中心として密な連絡を行うことができた。	引き続き連携を密にしていく必要があると考えている。
	交通安全指導の充実	登校時の交通安全指導を充実させ、校外での交通安全についての意識の高揚を図る。	B	ヘルメットの着用の重要性などを、集会時など、機を見て講話を行うなどして、交通意識の高揚に努めた。	引き続き行っていく必要があると考えている。指導されるから着用するのではなく、自分の命を守るために着用するという意識を、粘り強く指導していかなければならないと考えている。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職決定率を100%にする。 就職決定率 A:100% B:90~99% C:80~89% D:70~79% E:70%未満	B	1月末現在、就職内定率は95.8%である。未決定の1名は就職活動中である。	・生徒と保護者のニーズに対応し、本人にとって最適な進路実現を目指す。 ・就職試験や就職後に必要な基礎学力、職業観を身に付けさせるとともに、仕事のミスマッチを防ぐ。
		商業科では各種検定において、1年生3級・2年生2級をそれぞれ2種目以上取得させる。3年生は、1級を1種目以上取得させる。3学年全体での取得率平均で A:85%以上 B:70~84% C:60~69% D:50~59% E:50%未満	B	1年生94.2%、2年生69.4%、3年生90.9%全体で84.8%の達成率である。前年度より全体の取得率が上昇した。	・指導の工夫 ・継続的な学習への取組強化 ・適切な課題配布、家庭学習時間の確保 ・検定直前対策（全体指導、個別指導）の強化
	進学指導の充実	進学希望者の進学決定率を100%にする。 進学決定率 A:100% B:90~99% C:80~89% D:70~79% E:70%未満	C	1月末現在、進学希望者全体の約85%が進学先を決定している。現在は約50名の生徒が国公立大学や私立大学の一般入試での合格を目指し、学習に励んでいる。専門学校、短期大学の決定率は100%である。	・1年時からオープンキャンパスや進路ガイダンスへの積極的な参加を促し、進路や上級学校への関心を持たせる。 ・学習時間を十分確保し、基礎学力を定着させる。 ・様々な機会を捉え、ディスカッションや意見文・小論文に取り組み、思考力・表現力を高める。
		国公立大学の合格者数60名以上を目指す。 国公立合格者数 A:60名以上 B:45~59名 C:30~44名 D:15~29名 E:14名以下	D	総合型選抜、学校推薦型選抜での合格者は1月末現在21名である。一般入試受験予定者数を考えても数値目標達成は非常に厳しい状況である。	・各大学の研究内容や入試制度に関する研究 ・総合型選抜、学校推薦型選抜に向けた指導体制の構築 ・補習の在り方の検討 ・模試を活用した自学自習課題の研究 ・第一志望を諦めさせない進路指導の徹底
特別活動	学校行事の充実	クラスや学年の枠を超えた学校行事を通して、人間関係の構築を積極的に図る。	A	行事も多数あり、それらの行事を通して生徒たちは様々なことを学ぶことができ、成長する機会とすることができた。	生徒たちが更により良い経験を積むことができるように、可能なところから、引き続き改善を引き続き進めていきたい。今年度から体育祭を5月開催に変更し、生徒の成長を促す上で大きな成果があった。次年度は負担軽減を図るための調整を検討したい。
	部活動の充実	文武両道を旨とし、部活動加入率を80%以上にする。 A:80%以上 B:78~79% C:76~77% D:74~75% E:74%未満	A	たくさんの生徒が部活動に所属し、日々努力することができた。部活動に加入している生徒が様々な場面で中心となって活動してくれている。	加入率の目標は達成しているものの、依然として、部員不足に悩む部も増えている。部活動の精選も含めて、今後とも対策等を検討しなければならない状況である。
		県高校総合文化祭への出場4部以上、県高校総体への出場200名以上を目指す。 A:4部 B:3部 C:2部 D:1部 E:0部 A:200名以上 B:180~199名 C:160~179名 D:140~159名 E:140名未満	高文祭 A 県総体 C	高文祭は目標を達成することができたが、県総体については団体種目で出場権を得られなかったこともあり、大幅に出場者数を減らす結果となった。	部員数の確保に苦勞する部活動が多くなっている。生徒数の減少もあるが、運動部離れも進んでいるように感じられるので、中学校との連携を強めるなど、何らかの対策を行わなければならないと考えている。
		全国大会出場延べ10部以上を実現する。 A:10部以上 B:9部 C:8部 D:7部 E:6部以下	D	目標には届かなかったが、多くの部活動が全国大会出場を果たした。	目標の達成に向け、引き続き安全・安心な環境の下で日々の練習に取り組めるよう配慮していきたい。
	ボランティア活動に力を入れ、地域社会との交流を積極的に行う。ボランティア参加延べ人数150名以上を目指す。 A:150名以上 B:130~149名 C:110~129名 D:90~109名 E:90名未満	A	想定以上の生徒たちがボランティアに参加し、様々な経験をする事ができ、成長につながったと考えている。	地域や学校の魅力発信につながる活動などに熱心に参加することができている。今後もより多くの生徒たちが様々な活動に参加できるよう地域との連携を図りながら望ましい環境づくりに努める。	
業務改善	職場環境の整備と適切な勤務時間	職場環境の整備を図り、時間外勤務上限月45時間・年間360時間以内を目指し、時間外勤務時間が月80時間を超える教師の割合を「0」にする。 A:0% B:1~5% C:6~10% D:11~20% E:21%以上	B	本校では、約5%の教員が月の時間外勤務時間が80時間を超えていた。昨年度から半減しているものの、100時間を超える教職員が数名いるため、健康状態等について注意する必要がある。 (R04→16% R05→10% R06→5%)	校務等の整頓やICTを利用した合理化により、時間外勤務に関する改善の経過はおおむね良好といえる。引き続き、勤務の均一化を図るための取組を着実に進めていきたい。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。